

人体構造学		講義	教授 西川 彰
科目カテゴリ	スポーツトレーナーコースの選択必修科目	科目ナンバリング	11301101

1. 授業のねらい・概要

スポーツに関わる専門職を志す者にとって人体の構造とその機能を学ぶことは、運動器に発生する障害の治療法または予防法を知る上でも大変重要である。この授業では、各部位別に骨格系および筋系といった運動器の構造を学ぶことから始め、さらにその運動に関わる筋と働きについて学習する。また、代表的なスポーツ障害（外傷）の発生との関わりについても理解を深める。

2. 授業の進め方

プレゼンテーションソフトを用いたスライドにより関連する写真やイラストを呈示しながら、さらに板書を組み合わせた講義形式で授業を進めていく。さらに、重要な部位については解剖図をスケッチし、その構造学的特徴を記入した「人体構造学レポート」を作成し提出課題とする。

3. 授業計画

1. ガイダンス 人体構造学の基本的知識	8. 股関節①（骨と筋）
2. 肩関節①（骨と筋）	9. 股関節②（機能と障害）
3. 肩関節②（機能と障害）	10. 膝関節①（骨と筋）
4. 肘関節①（骨と筋）	11. 膝関節②（機能と障害）
5. 肘関節②（機能と障害）	12. 足関節①（骨と筋）
6. 手関節①（骨と筋）	13. 足関節②（機能と障害）
7. 手関節②（機能と障害）	14. エクササイズと動きの分析
	15. まとめ

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業で学んだ重要語句や図表などをまとめた「人体構造学レポート」作成に取り組んだ上で、毎回の授業に臨むこと（30分程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポートについては添削、採点を行った上で返却する。また、定期試験については模範解答例を希望者に配布する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、構造学的な特徴をただ暗記するだけでなく、その機能や病態との関連性などの統合的な理解が得られることを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

提出課題（レポート）（約30%程度）並びに定期試験（期末試験）の結果（約70%程度）により総合的に評価する。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

毎回の授業時には配布プリントを必ず持参すること。

講義回数の3分の1以上を欠席した場合は、定期試験の受験資格を失うこととする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は、人体解剖トレーニングセミナーにおける実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。